

■青葉山エリアのあゆみ

(1) 青葉山エリアの起こり

青葉山は、慶長5（1600）年末に伊達政宗公が新しい居城として仙台城の縄張始を行い、年明けから築城を開始した、仙台のはじまりの地とも言えるエリアであり、本丸南は竜の口の溪谷、西は奥行き深い山林、東は断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害であった。また、この頃に、政宗公が中国・唐の漢詩をもとに、この地をそれまでの表記である「千代」から「仙台」に改めたと考えられている。

仙台城の築城が着手されるまでは、のちに城下町となる地域は、未開発地であったが、築城を機に新たな城下町建設が始まった。仙台城下の川内地区や広瀬川を挟んだ大橋近くには、後に上級家臣の屋敷が配置された。

政宗公は寛永13（1636）年に没し、翌年に霊屋として仙台城の東南に位置する経ヶ峯（青葉区霊屋下）に瑞鳳殿が造営された。また、その寛永15（1638）年二の丸の造営が開始され、藩庁としての機能は本丸からこちらに移されることとなった。大手門も二の丸造営の一環として建造されたと考えられている。

(2) 明治期から戦後の青葉山エリア

廃藩置県後の明治4（1871）年、二の丸跡に陸軍の東北鎮台が設置された。仙台鎮台への改称を経て、明治19（1886）年には陸軍第二師団へと発展し、川内地区には第二師団司令部をはじめとする多くの軍事施設が置かれた。

仙台城は本丸が明治7（1874）年頃に取り壊されたほか、鎮台本営が置かれた二の丸の建物も明治15（1882）年の火災でそのほとんどが消失した。軍事施設が城下に広がり、仙台が軍都と称されるようになったが、昭和20（1945）年の仙台空襲により第二師団の建物に加え、昭和6（1931）年に国宝に指定された大手門等が焼失した。敗戦によって第二師団は廃止され、川内地区の旧第二師団跡地も米軍の進駐により駐屯地（キャンプ）として使用された。

(3) 学都の中の青葉山エリア

昭和32（1957）年、川内地区の米軍駐屯地が返還されると、その翌年に、東北大学の教養部（富沢分校）が川内地区へ移転し、昭和36（1961）年には、東北大学が片平キャンパスから青葉山へ工学部の移転整備を開始、昭和47（1972）年～48（1973）年には川内南地区へ文系学部が移転した。また、昭和43（1968）年には、宮城教育大学も現在の場所へ移転するなど、青葉山エリアは多くの学生が集う「学都・仙台」の重要な拠点となっており、昭和41（1966）年にはエリア一円の教育環境を保護するため、都市計画において特別用途地区（文教地区）に指定された。

また、昭和33（1958）年に開園した東北大学植物園の付近一帯は、江戸時代には御裏林と呼ばれ、樹木伐採が禁止されていたため植生がよく保存されており、園内には学術上貴重な動植物が多く見られ、昭和47（1972）年には同園を含む青葉山全体が国の天然記念物に指定された。

(4) 青葉山エリアの発展

昭和 36 (1961) 年には、市制 70 周年記念事業として、青葉山公園東丸 (三の丸) 跡に仙台市博物館が開館し、昭和 56 (1981) 年には宮城県美術館が現在の地に開館するなど文化施設が集積。さらに、平成 3 (1991) 年には仙台国際センターが開館し、こけら落としとして日米商工会議所会頭会議が開催されたことを皮切りに、本市における国際会議会場の中心となり、市民の国際交流の場としての機能も担うなど、この地が本市の国際化推進をリードするエリアとなっていく。

また、仙台城は自然地形を利用した山城のため、城の規模に対しては石垣が比較的少ないが、本丸北壁の石垣は、最大高さ 17 メートル、全長 179m におよび全国でも有数の規模と曲線美を誇っている。平成 9 (1997) 年から始まったこうした石垣の改修工事や、大広間跡の発掘調査などからその歴史的価値が高まり、平成 15 (2003) 年には仙台城跡が国史跡に指定されている。

このように、歴史や文化、学術など数多くの資源が集積しているこのエリアは、本市基本計画においても「国際学術文化交流拠点」と位置付けられ、本市の持続的な発展を支える重要な地となっている。また、都心からほど近いエリアでありながら、歴史的にも価値のある自然に恵まれたこの地は、仙台市民の心の安らぎの場であり、特別なエリアとなっている。



【奥州仙台城絵図】

正保元年（1644年）に幕府の命を受け作製された。現在の青葉山エリアには侍屋敷のほか、本丸や二の丸・大手門なども描かれている。本丸の北西に「青葉山」の文字が見える。（仙台市博物館所蔵）



【①仙台城本丸跡にある政宗騎馬像】

初代の騎馬像は昭和10年（1935年）に建立されたが、戦時中に撤去され、現在は仙台市博物館館庭に胸より上の部分のみ設置。青葉山公園の整備とともに公園内に移設される。現在の本丸跡にある騎馬像は2代目であり、初代と同じ型から鋳造されている。昭和39年（1964年）完成。



【②五色沼】

日本におけるフィギュアスケート発祥の地とされ、明治30年代から行われていると言われる。昭和6年（1931年）にはここで全日本選手権フィギュアスケート競技も開かれている。

①②写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

年表：青葉山エリアのあゆみ

江戸時代	(1600)	伊達政宗公が青葉山に仙台城の縄張始めを実施、千代城を仙台城と改称
	(1637)	政宗公の死後、経ヶ峯に霊屋として瑞鳳殿が造営
		大手門の建造
	(1689)	松尾芭蕉、亀岡八幡宮を参詣
明治4年	(1871)	二の丸跡に東北鎮台（のち仙台鎮台に改称）が設置
明治8年	(1875)	桜ヶ岡公園（現在の西公園）が開園
明治42年	(1909)	観光案内書『仙台松島塩釜遊覧の栞』にて「森の都」と記載
昭和3年	(1928)	宮城県仙台第二中学校（現在の仙台第二高等学校）が川内に移転
昭和3年	(1928)	東北産業博覧会、川内・桜ヶ岡公園などを会場として開催
昭和20年	(1945)	戦災により大手門・隅櫓・瑞鳳殿が焼失
昭和29年	(1954)	青葉山公園が開園
昭和32年	(1957)	戦後米軍が進駐した川内のキャンプが返還
昭和33年	(1958)	東北大学植物園が設置、東北大学富沢分校が川内に移転
昭和36年	(1961)	仙台市博物館が開館（昭和63（1988）年同地に新築、現在に至る）
昭和36年～	(1961～)	東北大学、青葉山キャンパスへの移転整備を開始
昭和39年	(1964)	現在の政宗騎馬像が完成
昭和42年	(1967)	仙台城大手門脇櫓が再建
昭和43年	(1968)	宮城教育大学が現在の場所へ移転
昭和47年	(1972)	青葉山が国の天然記念物に指定
昭和54年	(1979)	瑞鳳殿が再建
昭和56年	(1981)	宮城県美術館が開館
平成3年	(1991)	仙台国際センターが開館
平成15年	(2003)	仙台城跡が国史跡に指定
平成27年	(2015)	第3回国連防災世界会議が仙台国際センターを主会場として開催
平成27年	(2015)	仙台市営地下鉄東西線が開業
平成31年	(2019)	次世代放射光施設の整備に着手（令和6（2024）年本格運用開始予定）
令和4年	(2022)	青葉山交流広場への音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合整備方針を発表
令和5年	(2023)	全国都市緑化仙台フェアが開催（予定）、仙臺緑彩館開館（予定）

（参考：仙台市史ほか）